

学位請求論文審査報告要旨

2018 年 6 月 13 日

申請者 赫 楊

論文題目 ファッション雑誌における日本語オノマトペ及びその中国語訳に関する研究

論文審査委員 石黒 圭
太田 陽子
小野 正弘

1. 本論文の内容と構成

日本語はオノマトペが豊富な言語として知られ、形態的研究、音韻的研究、歴史的研究を中心に言語学的研究が盛んに行われている。また、近年、感性的表現であるオノマトペの感覚的側面に着眼して、食感のオノマトペ、スポーツオノマトペなどが社会的な関心を集めている。しかし、オノマトペのよく使われる領域は、料理、スポーツのみならず、マンガ、アニメ、歌詞といったポップカルチャーや、童話、小説、詩歌といった文学作品から、保育、医療、介護といった生活現場に至るまできわめて幅が広い。そのため、オノマトペが頻繁に使用されるそうした領域一つ一つについて、十分な研究があるとは言い難く、今後の研究が俟たれている現状がある。

本論文は、ファッション雑誌を対象に、日本語のオノマトペについて分析・考察を行うものである。ファッションは、流行に左右されるだけに、新規性の高いオノマトペを中心に、オノマトペが広く用いられている領域である。しかしながら、ファッションのオノマトペもまた、先行研究の蓄積が乏しいため、適切なサンプリングに基づいて、その傾向や特徴を客観的に把握することが、何よりもまず求められている。本論文は、その嚆矢として、ファッション雑誌に出現するオノマトペの傾向と特徴を正確かつ詳細に記述することを目指したものである。

本論文は、全 9 章から構成される。その構成は以下の通りである。

第 1 章 はじめに

- 1.1 問題提起
- 1.2 研究目的
- 1.3 本論文の構成

第 2 章 先行研究の概観

- 2.1 オノマトペ全般に関する先行研究
- 2.2 ファッション雑誌におけるオノマトペに関する先行研究

第3章 本研究の学史上の位置づけ

第4章 本研究の調査の概要

4.1 調査対象

4.2 調査手順

4.3 オノマトペの判定基準

第5章 ファッション雑誌におけるオノマトペの年代差

5.1 ファッション雑誌におけるオノマトペの年代差の目的

5.2 ファッション雑誌におけるオノマトペの年代差の調査対象

5.3 ファッション雑誌におけるオノマトペの年代差の調査方法

5.4 ファッション雑誌におけるオノマトペの年代差の結果分析・考察

5.5 ファッション雑誌におけるオノマトペの年代差のまとめ

第6章 ファッション雑誌におけるオノマトペの男女差

6.1 ファッション雑誌におけるオノマトペの男女差の目的

6.2 ファッション雑誌におけるオノマトペの男女差の調査対象

6.3 ファッション雑誌におけるオノマトペの男女差の調査方法

6.4 ファッション雑誌におけるオノマトペの男女差の結果分析・考察

6.5 ファッション雑誌におけるオノマトペの男女差のまとめ

第7章 ファッション雑誌におけるオノマトペの特徴—料理雑誌との比較

7.1 ファッション雑誌と料理雑誌におけるオノマトペの比較の目的

7.2 ファッション雑誌と料理雑誌におけるオノマトペの比較の調査対象

7.3 ファッション雑誌と料理雑誌におけるオノマトペの比較の調査方法

7.4 ファッション雑誌と料理雑誌におけるオノマトペを比較する結果分析・考察

7.5 ファッション雑誌と料理雑誌におけるオノマトペの比較のまとめ

第8章 ファッション雑誌における日本語オノマトペの中国語訳について

8.1 ファッション雑誌における日本語オノマトペの中国語訳の目的

8.2 日本語オノマトペ及びその翻訳と中国語オノマトペに関する先行研究

8.3 ファッション雑誌における日本語オノマトペの中国語訳の調査

8.4 ファッション雑誌における日本語オノマトペの中国語訳の結果分析・考察

8.5 ファッション雑誌における日本語オノマトペの中国語訳のまとめ

第9章 おわりに

9.1 本研究の結論

9.2 今後の展望

注

参考文献

調査対象とした雑誌

本論文のもとになった既発表論文

2. 本論文の概要

本論文は、日本のファッション雑誌に出現するオノマトペを抽出し、その雑誌が対象とする読者の年代差や男女差によって出現する傾向の異なりを分析・考察したものである。また、ファッション雑誌の特徴を明らかにするため、料理雑誌との比較が行われ、日本語のオノマトペの特徴を考えるために、ファッション雑誌のオノマトペの中国語訳の検討も行われている。以下、本論文の章立てにしたがい、各章の概要を順に紹介する。

第1章「はじめに」では、ファッション雑誌のオノマトペを取り上げる意義が述べられる。日本語はオノマトペの豊富な言語であり、日本のポップカルチャーを支える言語面での有力なツールである。ファッション雑誌のオノマトペもまたその一つであり、時代の感度を反映して次々に新語のオノマトペが創造される興味深い領域である。また、ファッション雑誌を中国語に翻訳した著者自身の経験からも、オノマトペは翻訳が困難な、対照修辭学的にも興味深い対象である。にもかかわらず、ファッション雑誌のオノマトペ研究は未開拓の領域として残されており、本論文がその研究領域の端緒となることを目指すという決意が示される。

第2章「先行研究の概観」では、大きく二つに分けてオノマトペの先行研究が紹介される。一つは、本研究の前提となるオノマトペ全般に関する先行研究であり、オノマトペの定義、形態的分類、音象徴性、統語的性格、感覚表現としてのオノマトペ、オノマトペの使用実態・使用効果、方言のオノマトペ、歴史的に見るオノマトペ、さまざまなジャンルのオノマトペという順に、オノマトペに関わる先行研究が概観されている。もう一つは、本研究と直接関わるファッション雑誌におけるオノマトペに関する先行研究であり、こちらは集中的に扱われている。

第3章「本研究の学史上の位置づけ」では、第2章「先行研究の概観」のオノマトペの先行研究の紹介を踏まえ、本研究が学史的にどのように位置づけられ、どのような意義を持つかが述べられる。

第4章「本研究における調査の概要」では、オノマトペ調査の対象、オノマトペの調査手順、オノマトペの選定基準が紹介される。調査自体は四つ行われており、それによって調査対象となる資料が異なる。第一は、ファッション雑誌におけるオノマトペの年代差を見る調査であり、女性ヤングファッション雑誌（以下、女性ヤング誌）と女性アダルトファッション雑誌（以下、女性アダルト誌）の比較になる。第二は、男女差を見る調査であり、女性ファッション雑誌（以下、女性誌）と男性ファッション雑誌（以下、男性誌）の比較になる。第三は、ファッション雑誌の特徴を見る調査であり、料理雑誌との比較になる。第四は、ファッション雑誌における日本語のオノマトペを中国語に翻訳するさいの翻訳の特徴や問題点を明らかにするための調査であり、日本語ファッション雑誌と、それを中国に翻訳した中国語ファッション雑誌との比較になる。

第5章「ファッション雑誌におけるオノマトペの年代差」では、女性ヤング誌と女性アダルト誌を比較した調査結果が紹介される。そこで明らかになったことは次のとおりである。女性ヤング誌と女性アダルト誌では、オノマトペの使用率自体はさほど変わらないものの、女性ヤング誌のほうが女性アダルト誌よりも使われるオノマトペの種類が多い。また、多用されるオノマトペは似たものが多いが、その順位については異なりが見られる。具体的な分析では、女性ヤング誌は、ファッション雑誌に特徴的なオノマトペの形態を好んで多用する一方、女性アダルト誌は、一般に定着した形態のオノマトペを好む傾向が見られる。また、女性ヤング誌は、「ひらがなとカタカナの混用」「アルファベット」「符号混じり」といったにぎやかな表記を好む傾向がある。さらに、文末も、オノマトペや、オノマトペ+「と／に」で終わるものが女性ヤング誌に多い。

第6章「ファッション雑誌におけるオノマトペの男女差」では、女性誌と男性誌を比較した調査結果が紹介される。そこで明らかになったことは次のとおりである。オノマトペの使用率は、女性誌と男性誌では、女性誌のほうが有意に高いが、種類の多寡には有意差は見られなかった。しかし、多用されるオノマトペは男性誌と女性誌では異なり、男性誌は、物の描写にオノマトペを多用し、それを通して物を身につける人のイメージを作り上げるのにたいし、女性誌は、物を身につけている人自体の描写にオノマトペを使用する傾向がある。なお、ファッション誌に特徴的な形態、表記や文末表現の使用については有意差が見られなかった。

第7章「ファッション雑誌におけるオノマトペの特徴——料理雑誌との比較」では、料理雑誌と比較した場合のファッション雑誌のオノマトペの特徴が論じられる。具体的には次のような四つの特徴が示されている。第一に、ファッション雑誌は、オノマトペの使用率が高く、形態の種類も豊富なことである。とくに、一つの語基から多様な形態、新しい形態が積極的に生産されている。第二に、ファッション雑誌にカタカナ表記が相対的に少ないことである。これは、ファッション雑誌には擬態語が、料理雑誌には擬音語が多いことが背景にあると考えられる。第三に、ファッション雑誌の文末表現である。オノマトペ終止や、オノマトペ+「と／に」で終わる文が多く見られる。第四に、ファッション雑誌には定番オノマトペがあり、その使用に偏る。その背景には、ファッション雑誌は商品を紹介する内容が多いことがある。

第8章「ファッション雑誌における日本語オノマトペの中国語訳について」では、ファッション雑誌における日本語のオノマトペを中国語に翻訳したさいの表現の特徴や問題点が示される。具体的には次のとおりである。中国語の場合、擬態語のオノマトペは「象声詞の隠喩的用法」以外、擬態語は原則として存在しないため、オノマトペでない形容詞や副詞に訳されるケースが多い。また、既存の語では対応しきれず、複数の形容詞を組み合わせたり、程度副詞を加えたり、意味の転換や拡大解釈を施したり、オノマトペらしく見える四字熟語などを用いたりして、オノマトペのニュアンスを付加する工夫が観察され

た。一方、誤訳や訳出回避、感覚的ニュアンスの削除なども見られ、オノマトペの翻訳には課題が多いことも明らかになった。

第9章「おわりに」では、上述の四つの調査の結果を整理し、ファッション雑誌におけるオノマトペの特徴とその中国語訳の特徴がまとめられる。また、本研究の問題点や今後の課題について述べられる。

3. 本論文の成果と問題点

本論文は、ファッション雑誌における日本語オノマトペを扱った数少ない研究であり、その分析手法の洗練度も過去の研究をはるかに凌駕している。

本論文の成果は、大きくは次の3点にまとめられる。

第一に、分析の観点がよく整理されており、論の展開がわかりやすく行われている点である。年代別の比較、男女別の比較、料理誌との比較、中国語訳という四つの観点から、ファッション雑誌に見られるオノマトペの性格が明快に示されている。

第二に、分析手法が十分に洗練されている点である。分析資料となるファッション雑誌の選定に当たっては読者対象の年代と販売部数を入念に調べ、資料の代表性に配慮している。また、分析対象となるオノマトペについてはランダム・サンプリングによって抽出され、統計的な手法を使って有意差があるかどうかについて、丁寧に分析できている。残念ながら、オノマトペの先行研究でこうした基本的なことができていた文献はほとんどなく、それらと比して調査結果の信頼度は際立っており、実証的な研究としての価値は高く、今後のこの分野の研究のよい見本になると思われる。

第三に、豊富な実例によって論証が行われている点である。多様な実例に基づく説明で、そこから得られる気づきが具体的で示唆に富む。たとえば、男性誌は物そのものにオノマトペを用いるのにたいして、女性は物を身につける人や雰囲気におノマトペを用いている点、女性ヤング誌のオノマトペは表記の多様性やおノマトペ終止という特徴が見られ、「ふわ」には雰囲気・色への意味の広がりが見られる点、オノマトペの中国語訳では形容詞・副詞の特徴を生かした多様なニュアンス付加が行われる点など、実例を仔細に検討しているからこそその着想の鋭さが目立ち、今後のさらなる展開が期待できる内容となっている。

このように優れた面を備えた本論文であるが、問題点もいくつか存在する。

第一は、第3章の章の立て方である。他の章にくらべて第3章は短く、また、その内部に節も持たないため、章として立てるには無理があるように思われる。本章を独立したものにしたという意図は理解できるが、全体のバランスを考えると、長さの面でも内容の面でも、第2章の終わりに組み込んで問題ないものであろう。

第二は、第7章においてファッション雑誌との比較に用いられた料理雑誌の選定である。ファッション雑誌とは異なり、料理雑誌は読者層による分類が漠然としていることに加え、食のみならず旅行・街・娯楽などの生活情報を兼ねていることが少なくなく、特定

の雑誌に料理雑誌としての代表性を持たせることが難しい。そこで、比較の対象を料理雑誌に限定せずに、料理をテーマにした漫画やクックパッドや食べログといったインターネット上の資料を併用する方法もあったように思われる。事実、クックパッドには、ファッション雑誌に近い新規性の高いオノマトペが見られ、比較の対象として有力であった可能性がある。さらには、料理雑誌に限らず、現代日本語書き言葉均衡コーパスのような均衡コーパスを比較の対象にすると、特徴語抽出なども容易になり、ファッション雑誌の特色を見るのには適切であったとも考えられる。

第三は、一部に見られる著者の論述の手順である。たしかに著者の示す主張には理があり、十分に検討に値するものであるが、その主張とは別の可能性を検討できる場合もしばしば見受けられた。考えうる別の可能性についてどう検討し、なぜ排したかを丁寧に述べたり、先行研究の利点・問題点を論述に導入したりしながら、自己の論点を際立たせる手法を採るなどして、著者の主張をより強固なものにしたほうが、論の説得力がさらに高まることが期待できたであろう。

しかし、上述の問題点については、論文全体に見られた分析の精度から判断して、本論文の示す豊かな学術的成果の価値を損なうものではないと考えられる。また、これらの問題点については、論文執筆上の様々な制約のなかで著者なりに克服しようとした跡が論文の記述からも汲み取ることができ、著者の今後の研究のなかでさらに改善が期待できるものであると思われる。

4. 結論

以上より、本論文が学位論文に値する優れた研究であることを認め、著者に一橋大学博士（学術）の学位を授与することが適当であると考ええる。

最終審査結果の要旨

論文審査委員 石黒 圭
太田 陽子
小野 正弘

2018年5月18日、学位請求論文提出者、赫楊氏の論文「ファッション雑誌における日本語オノマトペ及びその中国語訳に関する研究」に関する疑問点について逐一説明を求め、あわせて関連分野についても説明を求めたのに対し、赫楊氏はいずれも十分かつ適切な説明を与えた。

よって、赫楊氏が学位を授与されるに必要な研究業績および学力を有すると認定し、最終試験において合格と判定した。